「私たちの元気」で
輝きつづけるまち
「輝き」を「未来」へ
受け継ぐまち



第4次南伊勢町総合計画

-後期基本計画-

2026-2029

三重県 南伊勢町

ごあいさつ

～総合計画に込めた思い～

南伊勢町は、「“私たちの元気”で輝きつづけるまち」を将来像に掲げ、町民の皆さまとともに歩みを進めてまいりました。第４次総合計画前期基本計画の4年間、人口減少と高齢化をはじめとする様々な厳しい現実と真摯に向き合いながら、産業の活性化や安全安心の実現とともに子育て世代を応援し、地域を支え新たな時代を担う「ひとづくり」に力を注いでまいりました。

町民の皆さまの温かいご理解とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

後期基本計画では、この姿勢に加え、まちに住む方々と、まちを愛して通ってくださる「外の仲間」とが力を合わせる、新しい「オール南伊勢」のまちづくりを進めてまいります。人口が減ったとしても、南伊勢町にあふれる海・山・人々の豊かさが育む輝きを次の世代に引き継いでいかなければなりません。皆さまと一緒に、笑顔を未来へつなぐまちをめざしてまいります。

この計画には、ふるさとフォーラム※で「南伊勢町が大好きだ」と自らの言葉で真っ直ぐに語ってくれた子どもたちの、未来への願いが込められています。彼らが誇りを持って「このまちで暮らしたい、働きたい」と思える環境を整えること。それが、私たち大人の責任です。

一人ひとりの“元気”が集まり、まち全体の“輝き”となる。私たちは、そのまちが「“輝き”つづける」ために、これまで築いた礎の上に立ち、町民の皆さまと役場、そして南伊勢を愛するすべての人々と一体となって、力強く歩みを進めてまいります。

「南伊勢町に住んでいて良かった」。そう心から実感できるまちを、次世代へとしっかりとつないでいくために。そんな南伊勢町を、ともにつくっていきましょう。

令和８年７月　南伊勢町長　**上村 久仁**

※ふるさとフォーラム
南伊勢町が毎年開催する、ふるさと教育の学習発表会やディスカッションの場。町内の小・中学生が地域の自然や産業などを学んだ成果を発表し、郷土への愛着を育む取り組み。



目 次

町長あいさつ……1
まちとひとの写真集……4
まちの子どもたちの声……8

第１章 ■ 基本構想……9

1　総合計画とは……10
2　まちのめざす姿……12
3　まちづくりの基本的な考え方……14
（１）大切にしたい考え方（基本理念）……14
（２）まちづくりに取り組む基本姿勢……16
（３）本町を取り巻く５つの大きな課題……18
（４）本町が進める大切な５つの考え方……20

第２章 ■ 基本計画……25

1　施策体系図……26
2　後期基本計画の戦略的指針……27
3　重点プロジェクト（地方創生総合戦略）……31
重点１　活力ある産業・経済プロジェクト……32
重点２　安全安心のまちプロジェクト……34
重点３　子育て・子どもの育ち応援プロジェクト……36
重点４　誰もが元気なまちプロジェクト……38
重点５　輝きをもてるまちプロジェクト……40
重点６　買い物不便・困難対策プロジェクト……42
重点７　健全な自治体経営・未来投資プロジェクト……44

南伊勢町の声（part1）……46
4　部門別計画……47
基本方向１　働きやすく稼げる
「活力ある産業・経済」……48
基本方向２　町民の命と生活を守る
「安全安心のまち」……52
基本方向３　まちぐるみで全力で応援しめざす
「子育て応援日本一のまち」……62
基本方向４　心豊かに元気に暮らす
「誰もが元気なまち」……66
基本方向５　全ての力を結集した
「輝きをもてるまち」……74
南伊勢町の声（part2）……80

第３章 ■ 資料編……81
1　南伊勢町地方創生総合戦略……82
2　南伊勢町総合計画策定経過……88
3　南伊勢町総合計画策定体制……89
4　南伊勢町総合計画審議会委員名簿……95
5　ふるさとフォーラム中学生提言・小学生発言……96
6　用語解説……101

まちとひとの写真集

海や空の青、山の緑に映えるミカンの橙。
大人たちの温かい笑顔と、子どもたちの笑い声。
今までもこれからも変わらない、
南伊勢町らしい、まちとひとを感じてください。





















まちとひとの写真集



























レジ袋はもらわない。
繰り返し使えるボトルを使う。
僕たちの豊かな自然を守りたい

スマート農業を
取り入れることで、
経営の安定化や
労働者不足の解消に
つながると思いました

豊かな自然や
海を守るため、
ごみを出さない、
できるだけフードロスを
少なくする

地球温暖化は難しくても、
マイクロプラスチックなら
子どもの僕たちでも減らせるはず

逃げていない人がいないか
大きな声で確認したり、
坂が大変そうな人の手を
引きながら避難したいです

まちの 子どもたちの 声

これからの南伊勢町を担う、小学生の想い

私たちのふるさと
南伊勢町の
水産業を
盛り上げていきましょう

これからも僕たちの故郷、
南伊勢町のことを
知って、もっと好きに
なりたい

避難所で少しでも
役に立てるよう、
普段から挨拶で地域の人と
仲を深めていきたい

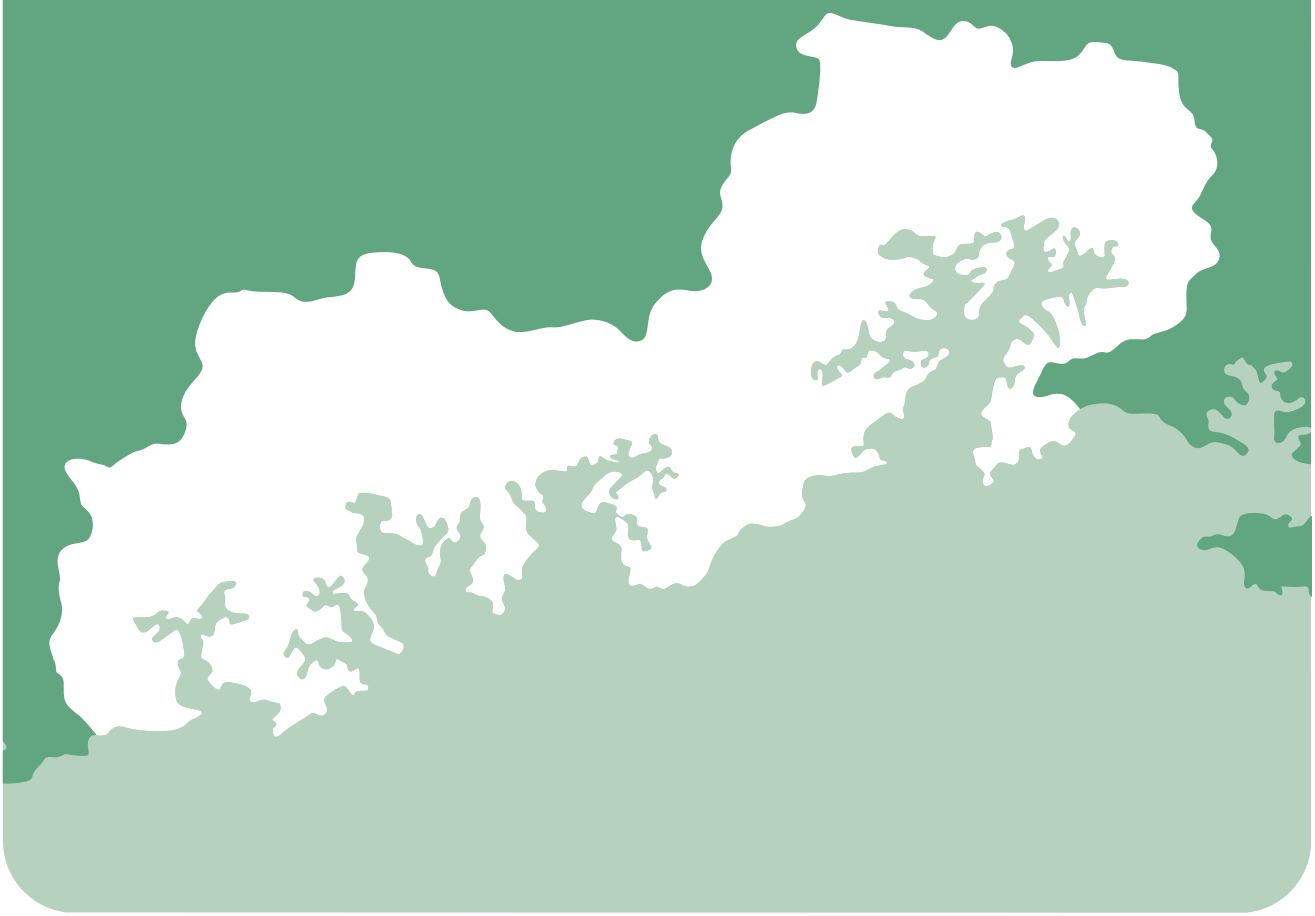
もし僕が「こんにちは」と
話しかけることができていたら、
何か手助けできたかもしれないのに、
それができませんでした。
普段から様々な方とつながりを強くして
仲良くしておくことが、
災害時の助け合いにおいて
とても大切だと分かりました

このまま漁業者が減ったら、
大好きな刺身も食べられなくなる。
だから僕たちが漁業を盛り上げたい

※令和7年度「ふるさとフォーラム」の発表において、小学生から寄せられた主な発言から抜粋して掲載しています

第１章

基本構想



1　総合計画とは

総合計画は、まちの未来を見据え、あるべき姿を構想し、その実現のために何をすべきかを総合的にまとめた計画です。

総合計画の位置づけ

総合計画は、まちのすべての取り組みの基本となる最上位計画として位置づけます。分野別の個別計画はこの総合計画に基づき策定や改定を行います。

計画の仕組み

総合計画は3つの層で構成しています。

基本構想

まちの未来の姿を展望し、その実現に向けた基本的な考え方を表します。

〈基本構想に記載している内容〉

・まちのめざす姿
・まちづくりの基本的な考え方
・町政運営の今後の方針

基本計画

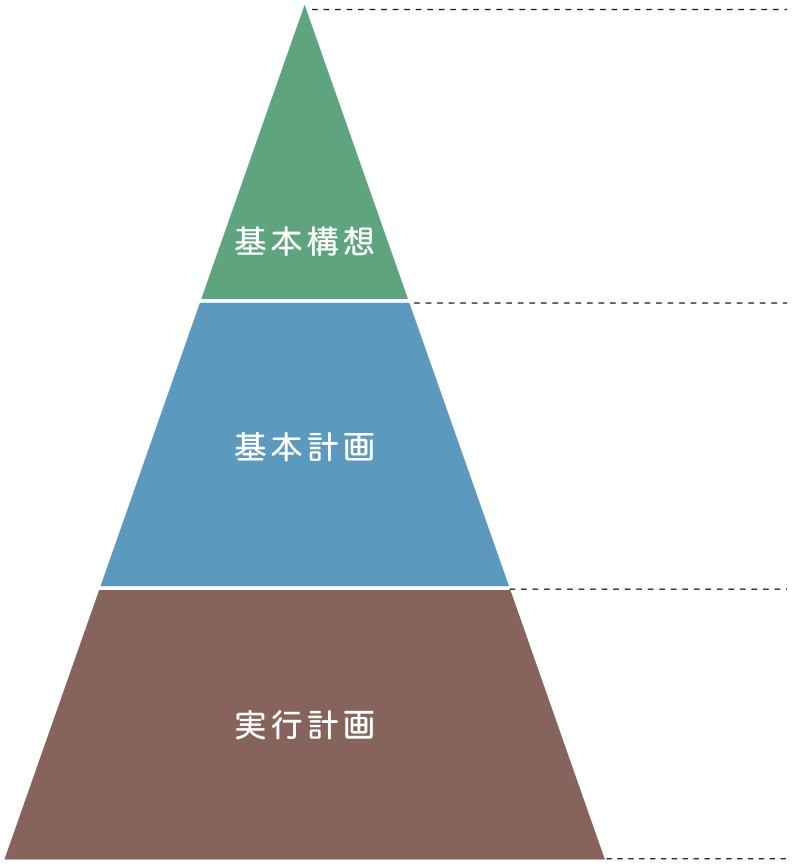
基本構想に基づき、今後取り組むべき施策を分野別に定めています。分野別に策定している個別計画も基本計画に位置づけています。

〈基本計画に記載している内容〉

・全体系図
・重点プロジェクト（南伊勢町地方創生総合戦略）
・政策と施策

実行計画

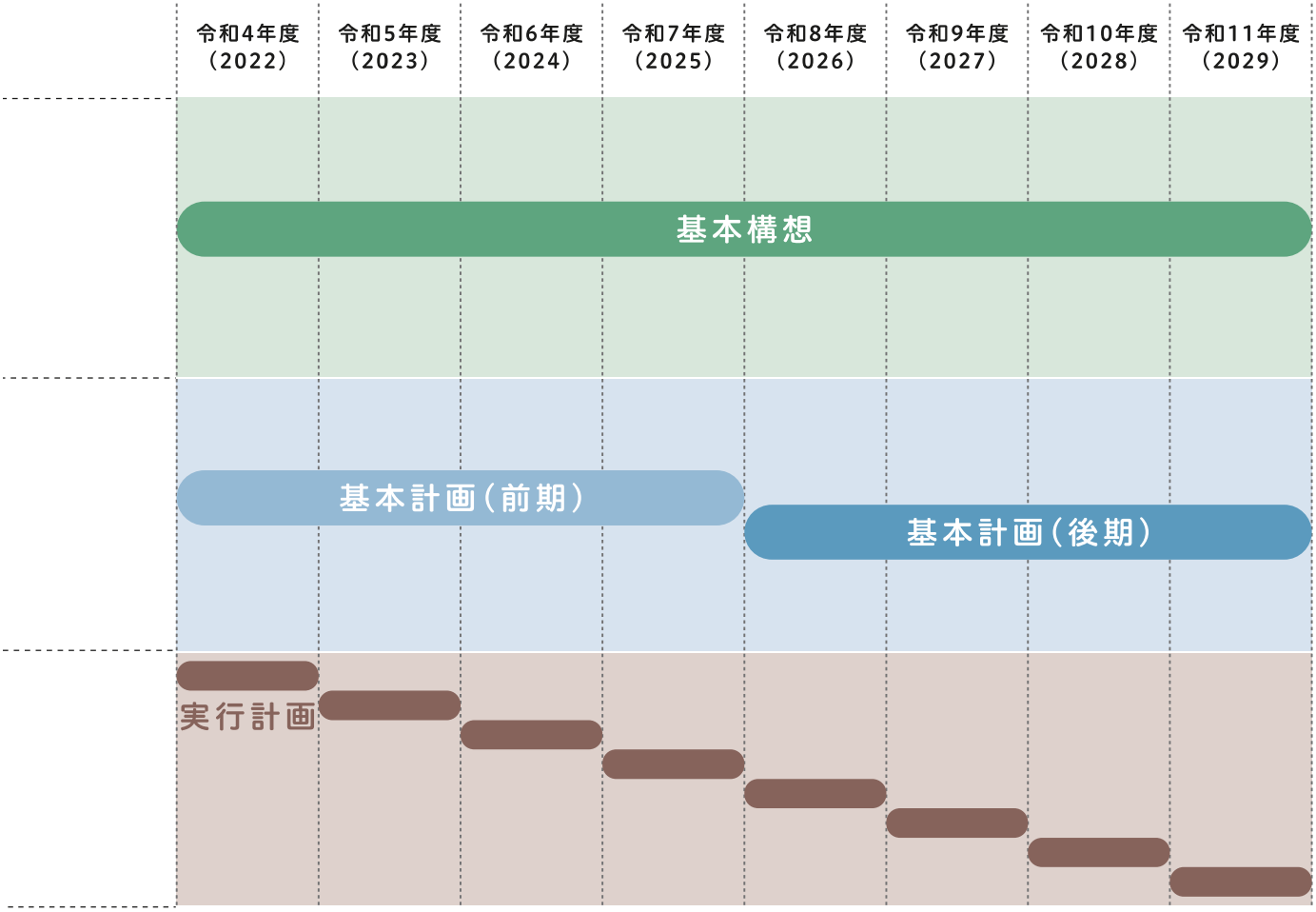
実行計画は、基本計画に基づく具体的な施策計画・事業計画で、毎年単年度の計画を策定します。毎年各担当課が策定するため本冊子に記載はありません。





計画の期間

基本構想は8年とします。基本計画は4年で見直します。実行計画は毎年単年度の計画を策定し見直します。



計画の進行管理

基本構想、基本計画をスタートとして、実行計画・予算編成、事業実施・管理、評価・検証、改善と、一連のサイクルが確実につながるトータルシステムとして進行管理を行います。

2　まちのめざす姿

一人ひとりの声をかたちにこれからの南伊勢町を創ります。

「私たちの元気」で「輝き」を「未来」

美しい入り江、
登下校する子どもたちと、畑で、海
何気ない日常の風景や人の営みの

今私たちが幸せを感じる、南伊勢町の姿は、このまちのために力
私たちが大切にしてきたのは
私たちは、いつまでも一人ひとりの「人」と「暮らし」を大切に、人とともに
まちが成長し続け、時代が変化する中でも、ここで暮らす

そのため、今回の計画は、今までつないできた
まちのめざす姿を「『私たちの元気』で輝きつづける



輝きつづけるまち
へ受け継ぐまち

豊かな里山。
で、まちで、額に汗して働く人たち。
中に幸せを感じる瞬間があります。

を発揮してきた一人ひとりの輝きによってもたらされています。
一人ひとりの「人」と「暮らし」。
輝き、成長していくまちを次の世代にも引き継いでいきたいと願います。
人が幸せを感じ続けられるまちでありたいと願います。

これまでのまちづくりを大切に、発展的に継承し、
まち　『輝き』を『未来』へ受け継ぐまち」とします。



3 まちづくりの基本的な考え方

（1）大切にしたい考え方（基本理念）

（ まちづくりは一人ひとりの幸せのためにあります ）

（ いつの時代もまちづくりの主役は私たちです ）



まちづくりを進める上で、多くの課題に直面するでしょう。
その時、どのように対処していったらいいのか。
その判断基準はいつも「南伊勢町で暮らす私たちが
『しあわせ』であるか」ということです。
南伊勢町に暮らす人や関わる人、
まさしくすべての力を結集して、
みんなでまちを輝かせていくこれからのまちづくりにおいても、
この価値観や考え方はこれからも変わりません。
一人ひとりの幸せのために、
「私たち」が主役となってまちづくりに取り組みます。



（2）まちづくりに取り組む基本姿勢

まちづくりの基本姿勢

「オール南伊勢」のまちづくり

みんなの元気でまちを輝かせるためには、南伊勢町に暮らす人や関わる人などまちをもっと良くしたいという共通の思いをもったすべての人の力を総結集し、まちづくりを進めることが不可欠です。これからまちづくりを進めるための基本姿勢を「『オール南伊勢』のまちづくり」とします。






役場の基本姿勢

ともに歩む役場

南伊勢町で暮らす一人ひとりの幸せのために、役場は町民の声を聞き、政策という形に具体化し、南伊勢町に暮らす一人ひとりの喜びを実感できるようにしていくことが大切です。
まちづくりを進めるための役場の基本姿勢を「ともに歩む役場」とします。



（3）本町を取り巻く5つの大きな課題

経済・産業の再生

本町は、温暖な気候と豊かな海に恵まれ、一次産業がまちの産業・経済全体に大きな役割を果たしてきました。一方で、まちの産業の長期にわたる低迷から産業全体の就業者は減少の一途を辿り、産業の縮小・衰退が様々な生活のサービスを低下させ、まちの産業をさらに衰退させるといった課題に直面しています。さらには日本全体が様々な面で縮小する時代と向かう中、経済や産業も取り組みを転換し再生すべき時代がきています。



切迫する巨大地震、激甚化する気象災害、感染症等の新たな脅威



本町の町域の多くは全般的に急峻な山林が占め、海に面したわずかな沿岸部の低平地に民家が集中しており、地震や津波、風水害等の自然災害に対して脆弱な地理的条件となっています。南海トラフ巨大地震による被害が危惧されているほか、近年激甚化する気象災害や感染症への対応など新たな脅威への対応が求められています。



急速な少子化

本町の人口は全国並びに三重県の平均よりも約50年早くピークを迎え、人口減少の加速化と同時に少子化も加速化しており、2045年には年少人口が111人（2018年国立社会保障・人口問題研究所推計）になると推計されています。このままではまちの活力が失われるとともに、このまちが成り立たなくなるほどの大きな影響を及ぼします。

超高齢化

本町は、老年人口・老年人口比率が1980年の3,393人（14.2%）から2020年には5,867人（53.5%）に上昇し、この40年間で急速に高齢化が進みました。2045年には老年人口比率が71.2%（2018年国立社会保障・人口問題研究所推計）を占めると推計されており、さらなる超高齢化を踏まえ、私たちの意識や行動も転換すべき時代がきています。





地域社会の持続

1960年頃から急速に進む人口流出により地域社会の持続が困難になりつつあります。また、日本全体が人口減少に進む中、様々な面で縮小する社会へ向かいつつあります。さらには、情報化社会の進展やSDGs※6の理念の浸透など社会そのものが変容するとともに地球規模の環境破壊が私たちの生活へも影響を及ぼすなど、地域社会の持続に影響を及ぼす新たな要因が生じてきています。

(4) 本町が進める大切な5つの考え方

5つの大きな課題に対処するため、
次の5つの考え方を大切にまちづくりを進めます。



まちづくりで大切にする考え方

産業・経済

子どもに継がせたい、稼げる仕事があるまちへ

今、小さな子どもたちが、大人になっても南伊勢町に住みたいと思ってくれたら嬉しいですね。ずっと住み続けるためには、仕事が必要です。産業が元気で、子どもたちが安心して働き、稼げる仕事を残します。

P22へ

安全・安心

命と生活を守る幸せを実感するまちへ

私たちが安心して幸せに暮らせる未来のために、できることは何でしょうか。南海トラフ巨大地震をはじめとする様々な脅威に備えた生活環境を、ハード整備だけでなくソフト面も含めて、整えていきます。

P22へ

子育て

子どもたちの育ちと、子育て世代を応援するまちへ

子どもたちがいるだけで、地域に元気が湧いてきます。そんなまちであるために、子育て世代を応援します。若者にとって魅力的なまちには次世代を担う人たちが集まります。まちぐるみで子育て応援日本一をめざします。

P23へ

健康

高齢者をはじめ、誰もが元気なまちへ

元気に活躍する高齢者が多いのが南伊勢町です。町民の大半を占める高齢者の活躍は、そのままま ちの力になっています。生きがいや活躍の場が増え、誰もが元気に暮らせる取り組みを進めていきます。

P23へ

まちづくり

私たちの希望を実現し、未来へ輝きをもてるまちへ

この南伊勢町を未来へつないでいくために、今見えている課題はもちろん、未来も見据えたグローバルな視点での行動や取り組みを考え、進めていきます。

P24へ

働きやすく稼げる「活力ある産業・経済」

子どもに継がせたいと思う稼げる仕事があるまちづくりを進めます

このまちに住みたい、住み続けたいと思えるためにも、地域の産業を再生し、稼ぎ働きがいがもてる環境をつくります。



- 稼ぐ力を育む
- まちの賑わいと活力を生み出す拠点づくり
- 働きがいがもてる社会
- 新たな産業を生み出す

町民の命と生活を守る「安全安心のまち」

安全と安心と生活を守り、幸せを実感する暮らしやすいまちづくりを進めます

南海トラフ巨大地震をはじめとする様々な脅威に備え、このまちで安心して幸せに暮らすことができるよう生活の環境を整えていくことが必要であり、ハード整備だけでなくソフト面も含め町民が安心して暮らすことができる環境を整えていきます。



- 生活の安全・安心対策の推進
- 生命の保護、まちの重要な機能維持、被害の最小化
- 生活基盤の整備による地域と経済の活性化や平時からの災害への備え
- 激甚化する災害、感染症など新たなる脅威への対応

まちぐるみで全力で応援しめざす「子育て応援日本一のまち」

子どもの成長を祝い、子どもたちの健やかな育ちと子育て世代をまちぐるみで全力で応援するまちづくりを進めます



地域に子どもたちがいることがまちに活力を生み出します。子育て世代を応援することで若者にとって魅力的なまちに生まれ変わり、定住につながることで次世代を担う人材を生み出します。そのためにも、まちぐるみで全力で子育てを応援しこのまちが子育て応援日本一と言われるよう取り組みを進めます。

- 健やかな育ちと生きる力を育む
- まちぐるみで子育て世代を全力で応援する
- 若者が住みたいと思えるまちをつくる
- 次世代を担う人材の育成

心豊かに元気に暮らす「誰もが元気なまち」

心豊かな暮らしのできる、高齢者をはじめ誰もが元気なまちづくりを進めます

急速な高齢化が進む本町ですが、元気に活躍する高齢者も多く、町民の大半が高齢者である本町では高齢者の活躍がまちの力となっています。生きがいや活躍の場、憩いの場が広がることで心豊かな暮らしを実現し、高齢者をはじめ誰もが元気に暮らせる取り組みを進めていきます。

- 高齢者が元気で輝く心身の豊かさの実現
- 笑顔あふれる生涯現役・生涯活躍
- 多世代による支えあい
- 「生活を支える医療・福祉」の充実



全ての力を結集した「輝きをもてるまち」

地方創生の取り組みを加速し、私たちの希望を実現するまちづくりを進めます

地域社会の持続のためには既存の課題だけでなくグローバルな視点での流れを捉え未来を見据えた行動を促し必要な取り組みを進めます。



- 町内外の力を結集したまちづくり
- 私たちの夢や希望を実現する未来への挑戦
- 未来へバトンを渡せる輝きをもてる社会づくり
- SDGsの理念を取り入れた持続可能なまちづくり

町政運営の今後の方針

地域の課題を一つひとつ解決し、町民と行政＝「私たち」の信頼関係を基礎としたまちづくりを推進します。そのためにも、行政のコンプライアンス（法令遵守など）の徹底や不祥事を防ぐ内部統制システムの構築、町政情報の公開など、町民に信頼される町政運営のための取り組みを一層推進します。

SDGsについて

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成13（2001）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された令和12（2030）年までの世界がめざす国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

本町でも総合計画の各施策に、関連するSDGsを照らし合わせ、持続可能なまちづくりをめざします。まずは世界の共通目標であるSDGsを多くの方が知り、意識や取り組みの拡大を進めていく必要があります。

